

(4)ウリ科野菜の土壌病害

近年ウリ科野菜でホモプシス根腐病及びメロン黒点根腐病の発生地域が拡大する傾向にある。ホモプシス根腐病は、令和2年に道内でメロン及びきゅうりで発生が確認された病害で、メロン黒点根腐病は、平成 21 年に発生が確認された。両病害ともにウリ科野菜全般に発生する病害であり、根が褐変・腐敗することにより地上部が徐々に萎れ、着果負担がかかる頃や収穫が本格化する頃になると急激に株全体が萎れることが特徴である。そのため、発生していても灌水不足や生理障害などと誤解され、被害が拡大している場合が多く見られている。

発生ほ場における対策として、両病害ともに薬剤による土壌消毒が有効である。ただし、土壌還元消毒はホモプシス根腐病に対して効果が得られるが、黒点根腐病では効果が得られない。一方、いずれの病害とも実用的な抵抗性台木はないため、つる割病やえそ斑点病対策としての接ぎ木による被害抑制は望めない。

両病害ともに発生ほ場周辺に汚染が潜在的に広がっている場合が多い。そのため発生ほ場周辺のウリ科野菜栽培ほ場では、萎れなどの症状が見られない場合であっても、栽培終了後に毛細根が脱落しないように根を丁寧に掘りとり、ホモプシス根腐病による黒色構造(偽子座、偽微小菌核)または黒点根腐病による子のう殻の有無を確認し、両病害の汚染がないことを確認し次作に備える必要がある。



写真 ホモプシス根腐病

(右:中央農試 小松 原図、左:中央農試 小澤 原図)



写真 メロンの黒点根腐病による細根の症状(中央農試 小松 原図)